

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第 197号

平成30年9月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

カウマン夫人著『日の出に向かって』より (9)

9月2日

あなたの命は真昼よりも光り輝き、たとえ暗くても朝のようにな  
る。(ヨブ 11・17)

年齢とは心の状態のことである

もしあなたが夢を捨ててしまったり

希望を失っていたり

前を見上げようとせず

情熱の炎が消えてしまっているなら

その時、あなたは年老いている

しかし、生活の中から最善のものを受け取り

ユーモアを保ち

たとえどれだけの年月が経過しても

また誕生日が飛ぶように過ぎ去ったとしても

愛を保っているならば

あなたは年老いてはいない

自然は淡褐色のように死んでいくのではなくて、秋になっても絢爛とした礼服を着て、栄光のうちに過ぎ去っていくのです。秋に落ちる枯葉は、まるで楽しげに旗を振って落ちていくようです。

こうして私たちも、全く平安をもって晩年を迎えることができます。そして最後の日々を、最も楽しく過ごすことができるのです。

9月3日

しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。(イザヤ書 40・31)

私は、しばらく前から信仰的に落ち込んでいました。それで私は、大きな体を横たえていました。しかし、私は翼をはって空に向かって飛び立ちました。…

私たちの翼は、いついかなる時にもじっと待っています。でも、私たちが望むならば、私たちは大空よりももっと大きな世界に飛び立つことができるのです。わたし達はあまりにも巡礼者のように閉じこもってしまい、道にしがみついでいてしまいます。私たちは鷲のように翼をはってのぼる力をもち、天よりの召命に答え、天の高きで呼吸する力を与えられた神の鳥なのです。

巡礼者の道を歩み、最も聖なる戦いをする救霊者たちは、時には翼をはって気分転換のために舞い上がります。私たちが自分の心を主に向けるとき、翼の力は私たちのものとなり、私たちは小さな牢獄から出ることもできるし、飽き飽きする道端から、靈的休息と幻がある高い天にのぼることもできるのです。クリスチャンの生活では、のぼるということは休息することを意味するのです。これらの翼は、私たちが使うのを待っています。

## 9月6日

だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。見よ、農夫は、地の尊い実りを、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え忍んで待っている。(ヤコブ 5・7)

死の床にあったジェームス・カルロス博士は言いました。「私の願いは、もう一度だけ説教壇に立って、『兄弟たちよ！ だから忍耐しなさい』と忍耐について説教したかった。「そして、私は私の説教に、3つのポイントを持ちたいのです。すなわち自分自身には全き忍耐をし、お互いの間でも全き忍耐をし、神にも全き忍耐を保ちなさい」と。

私の魂よ、忍耐強い観客でありなさい。ドラマが終わる前に、ドラマの事をとやかく言うてはいけません。ドラマの筋には、たくさんの変った場面があります。毎日が新しい場面をもたらします。その最後の場面が、そのドラマのクライマックスになるのです。

私たちは自分自身に対しては、多くの忍耐をします。それなのになぜ私たちは、その忍耐の幾分かでも借りてきて、それを他人のために使わないのでしょうか？

9月10日

あなたは祈る時、自分のへやにはいり、戸を閉じて、隠れた所においでになるあなたの父に祈りなさい。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。(マタイ6・6)

ディーン・ファーラーは、母親が毎朝1時間密室でお祈りをする習慣があったと語っています。朝食をすませた後、彼女は自分の部屋に行って、そこで冥想と祈りの内に聖書を読みました。彼女は、その静思の時から力と喜びとを自分のものとししました。…

彼女の生涯は力強く潔く豊かで祝福と癒しに満ちていました。それは日々神と過ごす朝の祈りによってもたらされたと言っています。

主はいつもご自分の魂に、沈黙の場を持たれました。多分その心の静けさこそが、忙しい生活の中で持つべき最も大切なことの一つだったのです。

主よ私は心の戸を閉じました

私は生活の中から、忙しい心配事といらいらする雑音とを締め出しました。…

昔、あなたは戸が閉じられている所に

あなた自身が訪れられたようにきて下さい。

私の主よ、私は敬虔な愛と恐れとをもってひざまずきます

あなたがここにおられるからです

9月12日

主があの日語られたこの山地を、どうか今、私に下さい。

(ヨシュア 14・12)

(これはカレブが85歳の時に、語ったことばです。)

雪の深いアルプスの山頂付近に、ひとりのアルプス・ガイドの最後となった墓碑があります。そこにある短い言葉が、その人の生涯を語っています。

「彼は登山中に死んだ」。

私たちは、人が「年を取る」とよく言います。しかし、実際は私たちが「老人」になるわけではありません。それはただ成長することや、登山する事を止めた時、私たちは老人になるのです。若さとは、基本的には霊のことであり、カレンダーの事ではありません。人生の道程を登り切った人は、頭の部分がはっきりと冬のように白くなったとしても、永遠の若さは、まだ心の中に残っているのです。

私たちは、60歳、70歳、80歳になってもなお若くあり得る。

## 9月15日

イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。  
わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる」。(ヨハネ 11・25)

神は、何と美しく楓の木々を紅葉させられることでしょう。丘の斜面や森の秋の彩りほど、画家の心を喜ばせるものはありません。

神は、人が思うよりずっと美しく世界を造られました。私たちが生きるために麦を与え、また同時に、私たちの心に夢を与えるためにバラの花を咲かせてくださいました。神は私たちが用いるようにと木を造られましたが、そんな木にさえ、あのような美しい姿を与えておられます。——それは荘重な柱や浮彫りを施した屋根を思わせるものです。——神はそれを荘厳な大伽藍のように造られたのです。

楓の葉には、神の無類の筆の跡が残されています。神がその御手を触れられると、その葉は美しく紅葉します。

私たちは、その一枚の葉のように消えていきます。このような栄光の中で、神が私たちをこの世から旅立たせて下さるなら、感謝しようではありませんか。葉は輝かしく紅葉してから落ちてゆきます。落ちていきながら神を表わし、次の春には、復活の力とうるわしさをもって再び現われます。

9月17日

主は私にかかわるすべてのことを成し遂げてくださいます。

(詩篇 138・8)

確かな希望は、心を若く保ちます。人生はいつも夜明けです。人生は絶えず始まりなのです。常に朝なのです。道がどれほど長いかわ、険しいか、疲れるかと落胆する必要などありません。登り続けるのです。私たちは神がこの世で導いて下さるばかりか、天国へと導いて下さっていると知っているのですから。……

一日の働きが終わり、西の空が赤く染まる…

そして主人の僕である私は

もどって来る……

家——静かな安息が待っている宵の星の下にある家へ

家——春のさわがしさに戸を閉じる家へ

家——平和と祈りの明かりのともる家へ

家——そこで主の僕である私は私の主人に会うことができます。

82歳の老クエーカー教徒が、輝いた顔で言いました。

「わしは死ぬその時まで生き続けるよ。そしてそれから永遠に生きるのさ」。

9月19日

戦いに免除はない。(伝道の書8・8)

数年前、ロバートソン・ニコルが驚くべき記事を見せてくれました。退職して18カ月以内に死んだ男たちに関する記事でした。それは、彼らが趣味を持たず、仕事一筋に生きてきて、退職と同時に生きる目標を失ってしまったためということでした。…

生涯のそれぞれの年代には、その年代にしかない可能性と到達すべき場所があります。それぞれの年代において勝利の生涯を送るために、私たちは自らの変化の事実を認め、私たちが今たどっている特定の年代における美しさ、素晴らしさを見出していかなければなりません。

有名なある精神科医は、こう言っています。

「私は神を信じ、死の恐れから自由にされて、生き生きと生きている老人でありながら、精神的に病を持っているという症例を見たことがありません」。

## 9月26日

わたしたちは、今は、鏡に映してみるようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知る所では、今は一部分にすぎない。しかしその時には、私が完全に知られているように、完全に知るであろう。(コリント I 13・12)

死は永遠の住まいの扉を開くカギであると言われていています。テニスは、彼の友達のハラムが海で溺死したのを追憶して、「あの私の友は神にあって生きている」と言いました。

ドラモンドは、死は「日没」というよりはむしろ、「日の出」であり、「出発」というより「到着」であると言っています。…クリスチャンにとって「死の叫び声は神に至ることであり、神に至ることは、キリストに見出されることであり、キリストとの出会いは、希望であり、帰郷であり、天国に住むこと」なのです。

夜が明けると、天の父の御国で日の出を迎えます。西の門が閉ざされ、東の門が明けられるのです。

長い泥まみれの道から

悲しい試練の苦しみから

彼らは神の客人として

そのみ前の召し出される……

9月27日

あなたはわたしのともしびをともし、わが神、主はわたしの闇を照らされます。(詩篇18・28)

薄暗い部屋の中で、少女がいつになく忙しく働いています。わけを聞いてみると、彼女は答えました。「私のろうそくがもう燃え尽きてしまうのに、代わりがないのです」。

ロバート・ルイス・ステューブソンは、ある友人についてこういいました。「彼が部屋に入ってくると、だれかがもう1本ろうそくをともしたようだ」と。光に照らされた魂は、ともされたろうそくのようです。1本のろうそくは、光を減らさないで他の1千本のろうそくをともすことができます。私はろうそくの美しさに心を打たれます。それはとても優しく輝き、しっかりと輝き、自分自身をすり減らして与えるのです。

犠牲を惜しまず自らを与えること

学ぶこと、教えること、労すること、祈ること

もっとも小さきものに、顧みられない者に、

失われた者に

キリストのように仕えること――

これらは道を照らすかがり火である。

9月28日

心にとめなさい。私はいつもあなた方の傍らにいます。(マタイ  
28・20 バークレイ訳)

寂しいですか。そう、しばしば夜が暗く

沈黙が憂うつな心をおおっている時

でもそのような時、御使いが常に近くで見守っていて、交わりの場  
を与えてくれる

疲れていますか。そう、時々一日が終わり、火が遠い西のあなたへ  
沈む時

でもそのような時、私の救い主が共に歩んで下さる

そして彼は疲れた心に休息を与えて下さる

恐れていますか。ええ、そうですとも、山道が険しく

歩き慣れないでこぼこ道に未熟な足では、とても危険な時

でもそのような時、御約束が私を慰め、恐れは神を讃える喜びの歌  
に変えられる

孤独やおそれの中を私は進んで行く

しかし、それらは神の愛に私をより近く結びつける

深い暗闇の中でも、信仰は、見ることができる

そして私はこう祈る。「私の思いではなく、み旨が成りますように」。